

対症療法や受け身の事後対策、場当たりの反応をこえた**本質的な解決策**とは？

限られたリソースでより大きく**持続的な成果**をもたらす働きかけを考えるには？

多様なステークホルダーと**共通理解を生み、協働**してよりよい成果を生み出すには？



システム思考の要諦は相互のつながりに関する「ものの見方」にあります。今までのものの見方や枠組みで行き詰まっている際に、大局、全体像、根本を見いだせるように飽くなき観察を通じてシステム的な洞察を得て、新しい視点や知識を創造していきます。システム思考による現状分析とレバレッジの探求、利害関係者を巻き込んだ学習プロセス、そして創り出したい未来像を共有してそれぞれの役割を果たすアプローチを織り込むことで、より効果的に望ましい変化を自ら創り出していくことができると考えています。

コースの3つの特徴

1. 「システム原型」でステークホルダーのエンゲージメントを高める

システム原型は、複雑で長期間の訓練を必要とするシステム・モデリングに比べ、比較的少ない訓練で一般のビジネスパーソン、非営利団体職員、市民らがシステムに関する理解や会話を促すツールとして広く世界に普及しました。代表的な原型の5つをクローズアップしてその活用法を紹介します。組織や利害関係者の文脈で使い勝手のよいシステム原型を、いかに表面的な議論に終わらせずに活用するかを実践者から学べます。

2. 社会変革文脈でのシステム思考の活用

ストロー氏の『社会変革のためのシステム思考実践ガイド』では、社会システムという複雑性が際立った環境の中で、システム思考をいかに実践するかという基本的な考え方、ツール、実践事例を豊富に集めたものです。システムの利害関係者を集め、そしてシステム的に共に考えるプロセスを経て、未来に向けて有用な社会価値・アウトカムの共創を目指すことを提唱します。加えて、チェンジ・エージェント社がファシリテーションを行った日本国内での実践例も紹介して、日本での社会変革の推進、社会的インパクトの創造・共創の基盤づくりをより身近にイメージしやすくすることを目指します。

3. システムの変容を促すリーダーシップについて学ぶ

ピーター・センゲ氏が『学習する組織』で提唱するのは、5つのディシプリンを状況によって使い分けるということではなく、それらのディシプリンを統合して実践することにあると言えるでしょう。本セミナーでは、「4段階の変革プロセス」を通じて、利害関係者たちが対話のために集い、システム思考、メンタル・モデル、自己マスタリーのディシプリンを組み入れ、ビジョンの構築へとつなげる一連の流れを紹介します。また、システム思考の認知的側面、つまり「気づき、考える」だけでなく、システムの変容を促すリーダーシップに必要な感情的、行動的、精神的な側面についても学ぶことで、参加者の実践の質と効果を高めることを狙います。

プログラム

- 導入／概要
- なぜ善意だけでは不十分なのか
- 従来型の思考とシステム思考の違い
- 氷山モデル(事例:ホームレス問題)
- システムの基本言語
- システム原型(1)「うまくいかない解決策」「問題のすり替わり」
- メンタル・モデルのパワー
- レバレッジ・ポイントを見いだす
- システム原型(2)「成長の限界」「予期せぬ敵対関係」「強者はますます強く」他
- システム変容「4段階の変革プロセス」
- システム・リーダーシップの4つの側面—認知、感情、行動、精神
- まとめ／振り返り

(プログラムは予定です。セミナーの効果を高めるため一部変更となる場合があります。)

期待される効果

- システム思考が社会変革に取り組むにあたりなぜ重要なのか、求められているのかを理解できる
- システム思考のプロセスに従い、社会課題の観察・分析を進め、構造・仕組みそのものを変容する視点を養う
- 実課題の複雑性を理解し、本質的な理解を深め、視野を広げる

参加費

99,000円
(10% 税込)

NPO 割引 (30 % 割引) が
ございます。詳細はお申し込み
サイトよりご確認ください。

お申し込み・コース詳細

[https://www.change-agent.jp/
products_services/leaders/
social_innovation/si03.html](https://www.change-agent.jp/products_services/leaders/social_innovation/si03.html)



プロセスの特徴

講義から、自組織の現状の課題やチャンスを見いだすために振り返る形式で、基本的な理論、原則、手法の理解を深めます。参加者と講師が全体で「学習する場」を形成し、現実の社会課題を選んでグループ単位で議論・検討します。最後にセミナー全体での発表・討論する実践的な進め方を行います。

社会変革セミナー

社会的インパクトの
基盤を築く

Systems thinking for Social Innovation

社会変革のための
システム思考

システム思考の基本と活用方法、事例を学ぶ

複雑な社会課題の構造を理解し、変容する視点を養う **2日間**

2025 **12/16-17** 9:30-17:30
開催

東京都文京区内会場
(水道橋駅徒歩2分)

システム思考をソーシャルイノベーションに適用する

なぜ社会変革(ソーシャルイノベーション)にシステム思考が求められるのでしょうか？

社会課題はさまざまな関係者がそれぞれの目的や価値観で行動し、その複雑な絡み合いの中で生じます。私たちの慣れ親しんだ「技術的な問題」のように捉えて善意で解決策を講じることは、せいぜい短期の成果どまり、しばしば問題をさらに複雑化させることが多く見られます。システム思考を学ぶことは、組織や地域の関係者間で、課題のもつシステムの複雑性についての共通理解を促し、望ましい未来に向けて適切なビジョン、戦略、行動及びマネジメント・システムの設計を可能にします。複雑系である社会や組織や人々の中で仕事をする上で必須の21世紀型スキルの一つとも言えるのです。

社会課題解決分野に焦点をあてたシステム思考の新コース

これまで幅広い応用可能な汎用的なシステム思考のセミナーを提供してきましたが、今回改めて社会課題解決分野に焦点をあてた新コースを提供します。背景には、日本において、社会変革(ソーシャルイノベーション)あるいは社会的インパクトの創出について、NPOや行政のみならず、企業や金融機関の取り組みへの期待、機運が高まっていることがあります。システム思考の活用は広がりを見せていますが、構造を見立て、レバレッジを見抜くといったスキルや経験はまだ一部の人しか持ち合わせていないのが現状です。複雑な社会システムのリタラシー、そしてシステム思考の実践応用には、方法論や実践の基本を抑えることが必要ではないでしょうか。システム思考をすでに実践してきた方、学んだ方にもさらに学ぶことがありますが、初めての方にも学べるように設計しています。

講師 小田 理一郎(チェンジ・エージェント社 代表取締役)

オレゴン大学経営学修士(MBA)修了。多国籍企業経営を専攻し、米国企業で10年間、製品責任者・経営企画室長として組織横断での業務改革・組織変革に取り組む。2005年チェンジ・エージェント社を設立、人財・組織開発、CSR経営などのコンサルティングに従事し、システム横断で社会課題を解決するプロセスデザインやファシリテーションを展開する。サステナビリティの科学者と実践家たちの国際ネットワーク「バロン・グループ」役員。大陸横断で持続可能な食料システムを目指すコンソーシアム「サステナブル・フード・ラボ(SFL)」の中心人物たちと親交を重ね、世界資源研究所(WRI)の生態系サービスレビュー実務などに携わる。また、JICAで国内外の専門家に研修を実施するほか、東南アジア、アフリカなど途上国でのサステナビリティ・リーダー養成に携わる。著書に『「学習する組織」入門』『企業のためのやさしくわかる生物多様性』他

